労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

２０１６年２月２６日発行

Ｎｏ．５１９（第４７期１２号）

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX　052-654-1210

http://aichirousan.web.fc2.com/

1/31 御在所岳で。積雪期救助訓練を実施しました。

第 47 期積雪期救助訓練を実施しました。机上学習会が 2016 年 1 月 25 日(月) 19：30 から県連事務所で開かれ、8 山岳会 35 名（あつた 4、じねんじょ 5、ありんこ 2、ＡＳＣ3、同志会 4、半田Ｆ9、東三河 2、ふわく 6）が参加し、昨年の八ヶ岳の大学山岳部死亡事故を取り上げて冬山遭難のケースワークのあと、救助訓練　での課題（雪上での支点の取り方、確保・懸垂下降、引き上げ、搬送、シェルター作り）の説明を受け、シート担架作りを行ないました。

実技は、1 月 31 日(日)9：00 から藤内壁出合、テスト岩付近で実施しました。例年と比べると雪が少なく、あまり訓練にいい条件ではありませんでしたが、9 山岳会 30 名（あつた 3、じねんじょ 6、ありんこ 1、ＡＳＣ2、同志会 2、半田Ｆ8、東三河 2、ふわく 5、若駒 1）が参加し、4 パーティーにわかれて、①雪上支点の作り方～懸垂下降、引き上げ　②雪上確保　③シェルター作り　④シート担架作りに取り組み、最後に事故者を搬送するシミュレーションを行いました。

歩けばわずか数分のところを 40 分以上もかけて搬送する大変さを実際に体験し、藤内小屋前でまとめのミーティングののち、解散しました。

≪目　次≫

遭対部	1/31　第 47 期積雪期救助訓練を実施しました	1
巻頭言	登山の在り方、社会的背景を見据える機会に	2
教育部	愛知県連第 48 期登山学校 2016 年 4 月 3 日から開講	2
遭対部	1 月 29 日　第 5 回遭対担当者会議を開きました	5
組織部	2 月 11 日、第 7 回組織担当者会議を開きました	7
	愛知県連一般向け登山講座「基礎から学ぶ安心登山２０１６」	7
	ＳＣＨＥＤＵＬＥ	8

巻頭言　登山のあり方、社会的背景を見据える総会に

愛知県勤労者山岳連盟　会長・理事長　　洞井孝雄

雪がない、雪があっても例年の厳冬期とは格段に少ない山、そんな厳冬期が終わって、春に向かいつつある昨今。そろそろ総会の季節。

20・21 日の両日、東京で全国総会が開かれました。今回の全国総会は、これまで首都圏から選出されていた全国理事を全国の各ブロックからも選出する広域理事体制にすること、反対に、これまで全国の 10 ブロックから選ばれていた副会長を 3 名に削るなどの機構改革、新日本スポーツ連盟の賛助団体としてのかかわり方を明確にしたことなどが大きな課題でした。討論のなかでは、組織拡大と『登山時報』の購読拡大にかかわる地方連盟からの発言が相次ぎました。

愛知県連でも、すでに招請状を送付した通り、3 月 6 日に第 38 回県連総会第 38 回県連総会を開きます。昨年一年間の活動の総括と次期の活動方針を決める大切な決定機関です。組織拡大をはじめ、事故の防止、自然保護活動、会員教育の方向、など登山界全体で問題になっている課題は、私たちの連盟、山岳会にとっても例外ではありません。加盟山岳会の代議員が一堂に会する総会はまた、お互いの状況を共有しあって、問題解決をはかったり、これからの会活動に生かしていくことができる機会でもあります。同時に、一昨年から議論をしてきた役員選考規定についても、そろそろかたちになりつつあります。ぜひとも活発な総会にしてほしいものです。

19日、民主、共産、維新、社民、生活の五党は他国を武力で守る集団的自衛権の行使容認を柱とする安全保障関連法を廃止する関連二法案を衆院に共同提出しました。五党はまた、安保法の廃止のほか、集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈を変更した2014年7月の閣議決定の撤回をも共通目標とすることを確認しました。ただ、野党五党は政策面でもかなり開きがあり、その勢力は衆院では定数の約四分の一の計118議席、参院では約三分の一の計85議席にとどまっており、現状のままでは廃止法案の成立どころか、審議入りさせることも難しい状況にあります。一方、与党の閣僚の失態が連日、世の中をにぎわしています。金銭授受、不倫騒動、放射能発言、放送介入、人種差別発言、野次…、議員そのひとの教養と知性、しみついた思いなのでしょうが、こんな中でも安倍内閣の支持率は1月末の共同通信の世論調査では53.7%!!　不思議ですね。

自分たちの登山の在り方、方向をはじめその背景となる社会・生活などについても、じっくり見据え、考えることのできる県連総会にしたいものです。

愛知県連登山学校、2016 年 4 月 3 日から開講

第 48 期愛知県連登山学校を下記の二コースで開校します。

マウンテニアリング・コースは、山を歩くための生活・行動技術、パーティーとしての基本的な行動や考え方を学び、安全な登山の総合的な力量を身につけます。

クライミング・コースは、登攀具の初歩的な使い方から岩登りの技術、安全についての理解と認識を高めていきます。

登山の基本的な知識・技術を体系的に学び、「連れていってもらう」登山者ではなく、総合力を身につけた自立した登山者になることをめざします。多くの仲間の受講を呼びかけます。

１　定員　　マウンテニアリング・コース、クライミング・コース　ともに 20 名

２　応募資格、　資格は特に限定しませんが、学ぶ意欲、体調管理ができること、きちんと歩く力があること（実技の前に課題を配布しますので、ロープワークなどは予習のこと）。労山新特別基金（10 口もしくはそれに準ずる山岳保険）に加入していること。

３　申し込み方法　　入校申込書兼推薦書に必要事項を記入し、愛知県勤労者山岳連盟教育部まで申し込んでください（必ず所属山岳会からの推薦を受けてください）。

４　受講料　　各コースとも 33,000 円（机上講習、実技講習代、テキスト代を含む。実技講習にかかる交通費、装備等は各自別途実費負担）　※クライミング装備をそろえるのにお金がかかります。理論講座を受講してから購入するようにしてください。あわてて買ってしまわないこと。

５　カリキュラム　**【理論講座**（マウンテニアリング、クライミング共通）**】**

開　講　日	テーマ　（　）内は講師	講　習　内　容
2016 年 ４月 3 日(日) 8:30～16:30	労山運動の理念 登山の動機と意義／②組織論／③遭難事故の防止／④自然保護 登山の計画～下山まで① 計画書の意味/装備と食糧 （洞井）	開校式を兼ねています。何気なく山に登っている自分をまず見つめてみましょう。登山者として必要な「山に入る姿勢」と「なぜ山に登るか？」を考えます。 また計画書の重要性を通して、自分が所属している山岳会の意味や登山の危険と安全、その防止のための登山の基礎的な知識やルールなど登山の基本について考えます。
４月 4 日(月)	岩登りの基礎Ⅰ （小井）	岩登りについての考え方、具体的・基本的な知識，用具の解説，ロープワークについて学びます。
４月 11 日(月)	岩登りの基礎Ⅱ （小井）	岩の登り方，確保の方法についての注意点など、クライミングにおける技術とルール、その実際を理解します。
４月 18 日(月)	登山の計画～下山まで② 生活技術，行動技術 （洞井）	山での生活の基本、行動上の注意点、歩き方や危険箇所の判断・通過の仕方などについて学習します。
４月 25 日(月)	パーティー論・リーダー論　（洞井）	パーティーが安全に登り、確実に下山できるためにリーダーやメンバーが果たすべき役割と責任は？
５月 16 日(月)	地図の読み方・使い方 （飯田）	地図の実践的な使い方、読み方を学ぶとともに、計画書作成に不可欠な概念図の書き方について学習します。
５月 23 日(月)	気象Ⅰ （板津／飯田）	天気図と山の天気の基礎を学びます。天気予報だけではわからない、気象のあれこれが見えてきます。
５月 30 日(月)	気象Ⅱ （飯田／板津）	天気図が書けるだけでなく読めることが必要です。天候の予測、次の行動の判断ができるようになるかな？
６月 6 日(月)	体力・トレーニング論 （井土）	登山に必要な体力づくりを効果的におこなう方法を学びます。日常的に実践できるようになりましょう。
６月 13 日(月)	確保技術（机上） ※県連行事（森／板津）	岩登りや沢登りに不可欠な確保技術。正確な知識と安全な確保とはどのようなものか、を学びます。
６月 20 日(月)	無雪期救助訓練（机上） ※県連行事（清水・小井）	県連の救助訓練に参加します。山行中に起きた事故を想定した救助の基礎的で実戦的な知識と技術を学びます。

6月25日(土)	救急救命法 ※県連行事（石井／森）	ファーストエイド。山行中のアクシデントや疾病に対処できる実戦的な知識・技術を学びます。
6月27日(月)	沢登りの基礎 （岩田）	岩登り、生活・行動技術など総合的な力を要求される沢登り。その装備や技術について学びます。
7月4日(月)	登山の危険と安全対策 （森）	山では危険のあることを知り、安全な登山をしていくことは登山者の責任。事故事例を検証し、他に学ぶことで、どうしたら安全な登山ができるかを考えます。

【実技】M：マウンテニアリングコース、**C**：クライミングコース、**MC**：両コース共通

実　施　日　程	区分	山域（予定）	備　　考
4月16・17日（土，日）	M・C	南山（豊田）ゲレンデ	テント泊。基本の「き」を学ぼう
5月15日（日）	C M	南山（豊田）ゲレンデ 鈴鹿・烏帽子岳（予定）	いよいよ、岩場で実践 山歩きのおもしろさを実感
5月22日（日）	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
5月28・29日（土、日）	M	鈴鹿南部（未定）	テント泊を加えて。生活技術も
6月12日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本に習熟しよう
6月19日(日)	M・C	未定	※県連行事／確保技術講習会実技
6月26日(日)	M・C	鈴鹿・藤内壁周辺	※県連行事／救助訓練
7月9・10日(土、日)	M・C	鈴鹿 or 比良	一日目読図、二日目沢登り
8月21日(日)	C M	鈴鹿・藤内壁 中央ア烏帽子岳	研修山行を射程に入れた実技
8月27・28日（土、日）	M	八ヶ岳	研修山行
9月3・4日(土、日)	C	八ケ岳・阿弥陀南稜～小同心・中山尾根	研修山行

登山学校の理論講座は、労山会員なら誰でも受講可能です。

「学びたい」と思う講座をチョイスして聞くことができます。この機会を有効に使いましょう！
有料ですが（一講座500円）、なかなか、普段、会では学べない内容の講座がラインナップ。
講座当日、１９時半までに県連事務所へどうぞ！　県連登山学校のテキストも、希望者には頒布（1000円）しています。当日の講師の補足資料（受講者に配布）とあわせて利用してください

遭対部

1月29日、第5回遭対担当者会議を開きました

2016年1月29日（金）19：30～県連事務所で第5回遭対担当者会議を開きました。出席者は14山岳会18名【加藤（ちんぐるま）、三浦・望月（ふわく）、洞井（半田Ｆ）、森島（ありんこ）、尾崎・中野（じねんじょ）、石井・松本（東三河）、鈴木・宮澤（みどり）、千田（スルジェ）、西尾（くらら）、嶋村（あつた）、天池（アリス）、安江（ＡＳＣ）、安(同志会)、佐藤（かわせみ）】

会議では、5件の事故報告と、第48回県連総会の総会議案について討議しました。

【事故報告について】

Ｎｏ.18　石の上で転倒、捻挫

【発生日時】2015 年 10 月 25 日（日）14：30 頃　【山域・山名】鈴鹿・チョウシ

【事故者】女性、59 歳　【負傷の程度】右足首の捻挫

【事故の概要】お金峠を通過、暫くして石の上でバランスを崩して転倒した際、右足首を捻った。自力下山した翌日、腫れ痛みの症状が出てきたので受診した。

Ｎｏ.19　雪の下の木の根で滑って骨折

【発生日時】2015 年 11 月 28 日（土）12：45 頃　【山域・山名】中ア南部・大川入山

【事故者】男性、45 歳　【負傷の程度】左足足首骨折(全治数ヶ月)

【事故の概要】下山・時、右足を雪に隠れていた木の根で滑らせ、左足で踏ん張った。左足が外側を向いて体重が乗ってしまい、左足首を骨折。

▲指摘・反省など　当初、捻挫かと思って固定した／積雪は 5cm、全員アイゼンはつけていない／留守宅に連絡なし。

Ｎｏ．20　蜂刺され

【発生日時】2015 年 11 月 29 日(日)13：40 頃　【山域・山名】鈴鹿・仙ヶ岳

【事故者】女性　50 歳、59 歳　【負傷の程度】二名が蜂に刺された

【事故の概要】下山ルート白谷川コース途中のハシゴ場で、数匹の蜂が土手から飛び出し、痛みを感じて初めて蜂の襲撃に遭ったことに気付いた。先頭と 2 番手は進行方向へ退避、3 番手はハシゴ手前で待機したが先頭は腕に数ヶ所、2 番手は額と腕に数ヶ所刺された。予定ルートを下山。蜂はクロスズメバチ。黒っぽい系統の色は蜂の目標になりやすい。

Ｎｏ．21　ジムで転落し、ホールドに膝を強打し骨折

【発生日時】2015 年 12 月 7 日（月）20：00 頃【山域・山名】岡崎市ロッククライミングジム

【事故者】男性、66 歳　【負傷の程度】左脛骨高原骨折

【事故の概要】ボルダリング中、床から 1mほどの高さからマットへ転落。その際、床から 30ｃｍと 60ｃｍの位置にあったホールドのどちらかに左膝を強打、歩行不能になる。すぐ友人の車で病院受診し骨折と診断された。翌日、入院手術。

Ｎｏ．22　丸太の階段を下る際、足首を捻って骨折

【発生日時】2016 年 1 月 16 日（土）10：10 頃　【山域・山名】静岡県磐田市・獅子ヶ鼻

【事故者】女性　66 歳　【負傷の程度】右足腓骨骨折

【事故の概要】鐘掛岩に向う途中の稜線上、ザレの崩れ防止用の丸太の階段（段差 30～40cm）の下りで、最後の着地に踏み出した右足を内側に捻って、グキッと鈍い音を感じそのまま座り込む。平らな場所に移動し湿布とテーピングの応急処置をした。林道まで事故者を支えて 10 分くらい歩き、林道からマイクロバスの駐車場まで地元のボランティアガイド協会の方に軽トラックで送ってもらった。帰宅後、病院を受診し、腫れがあるため簡易ギプス、松葉杖を使用。

▲指摘･反省など　事故者をひとり林道分岐に残し､他のメンバーは予定通りのコースを歩き、戻ってから事故者を林道まで下した。事故者を一人放置するという判断に疑問。過去には一人をその場に残して、他のメンバーが山頂を往復する間に死亡、という事例がある。何かあったらどうするか？しかも、事故者はＬであった、ということを含めて会できちんと討議してほしい。

【総会議案について】

事故について討論しました。統計でなく事故の中身（骨折 14 件中 10 件が女性、しかもその 70%

が 60 才以上）を見ること、加齢であるがゆえの骨折の増加、ある程度のベテランの事故が多いという状況があるなどの指摘や意見が出されました。また、ある会では、打撲事故が起き、会では分析をしたが、それを事故として報告すべきかどうかの判断ができない、どうしたらよいか、など事故の基本的な考え方についての意見も出されました。

組織部　2月11日　第7回組織担当者会議を開きました

2 月 11 日（金）祝日にも関わらず、19 時半から県連事務所で第 7 回組織担当者会議を開きました。出席者は 9 山岳会 10 名【洞井・小栗（半田 F)、本田（スルジェ)、江島（じねんじょ)、榊原（ありんこ)、北川（くらら)、弘中（峠の会)、大石（アリス)、鈴木（東三河)、加藤（熱田)】

県連盟組織数推移（2015. 11～2016. 1）

	15 年 11 月末現在			12 月末現在			16 年 1 月末現在		
	在籍会員数			在籍会員数			在籍会員数		
加　盟　団　体	男	女	計	男	女	計	男	女	計
あつた勤労者山岳会	34	32	66	34	32	66	34	31	65
アリス山の会	3	4	7	3	4	7	3	4	7
犬山勤労者山の会マップ	19	29	48	19	30	49	20	30	50
おやこ山の会	1	4	5	1	4	5	1	4	5
春日井峠の会	24	20	44	24	21	45	24	21	45
かわせみ山楽会	6	1	7	6	1	7	6	1	7
じねんじょ山の会	31	27	58	30	28	58	30	28	58
スルジェ山の会	17	18	35	18	19	37	18	18	36
ちんぐるま	5	0	5	5	0	5	5	0	5
東海山岳会	27	8	35	27	8	35	27	8	35
名古屋ありんこ山岳会	20	15	35	20	15	35	20	15	35
名古屋 ASC	22	13	35	22	13	35	22	13	35
名古屋山岳同志会	65	48	113	66	48	114	66	46	112
名古屋山歩会	15	7	22	15	7	22	15	7	22
半田ファミリー山の会	37	47	84	37	47	84	37	47	84
東三河山ぽ会	89	93	182	90	95	185	90	96	186
低い山を楽しむ会	8	6	14	8	6	14	8	6	14
ふわく山の会	122	129	2	122	130	252	123	132	255
みどり山の会	10	23	33	11	23	34	11	23	34
山の会「くらら」	44	33	77	42	28	70	42	28	70
若駒山岳会	11	9	20	11	9	20	11	9	20
合　　計	610	566	1176	611	566	1177	613	567	1180

組織担当者会議は最初に出席者全員が「ひとこと」を話してから議事に入ります。

第 7 回担当者会議では、最近あった「いいこと」を一言ずつ、で始まりました。こんな調子で

す。アート展を開催しＴ新聞にも報道されて盛況だった（春日井峠の会）／県連の専門部長として会議に出て来るようになったら、他の専門部の会議にも他の会員がきちんと出てくれるようになった（スルジェ山の会）／会員が増えた。事務所が変わった。長屋からマンション(?)へ（東三河）／会員数の変化はなく、会員数は少ないがほぼ全員が例会に参加している（アリス）／コミュニティ誌に冬山紹介の原稿依頼。見開きカラー2ページ。会のアピールができた（じねんじょ）議題は、１）「プラス１運動」について、２）４８回総会「組織部のまとめと方針」について、３）「一般向け登山講座」の準備について、４）「登山時報」購読者拡大について、５）「２０１６年あいち平和行進」について、６）「戦争法廃止を求める、２０００万人署名」について、と盛りだくさんでした。

「プラス１運動」のところでは、「１年間で１５１人増え、１０８人が退会、純増は４３人、去年に比べて退会者が１５８人→１０８人へと減少」。「入会動機と退会理由をまとめた」、「入会のきっかけは６０％がホームページだった」。との報告がありました。

４８回総会「組織部のまとめと方針」（案）を討議しました。

また、「一般向け登山講座」、開催の準備について話し合い、講座にとりくむなかで「仲間を増やすには何をしたら良いか」を話し合いました。講座の要項は、２月中に県連ホームページにUPされることになっています。昨年も各会のホームページにリンクを張って、講座を紹介する協力をしていただきました。今年もよろしくご協力ください。

愛知県連一般向け登山講座　「基礎から学ぶ安心登山２０１６」

【日程と内容】（理論講座はいずれも 19:30～　県連事務所で）

No.	日程	テ ー マ	内　容
理論①	４月 19 日（火）	山に登る前に① －山に入る姿勢と計画	登山の意味と楽しみ。安全な登山における計画の大切さを学びます。
理論②	４月 26 日（火）	山に登る前に② －山の装備と食糧の実際	登山に必要な装備や食糧についてその意味と使い方を理解します
理論③	５月 10 日（火）	地図の読み方・使い方	地図と磁石は山登りの基本です。地形図の読み方・その使い方を学びます。
理論④	５月 17 日（火）	山の天気	山の気象の読み方、対処の仕方を学習します。
実技①	５月 21 日（土） ▲鈴鹿・鎌ヶ岳	まず、山に登ってみよう！ これが”登山“！	近郊の山に登って、“登山”をまず体験してみるところから始めます。
理論⑤	５月 31 日（火）	歩く技術とパーティー行動の基本	疲れない歩き方の技術と、パーティー行動のルール、マナーを考えます。
実技②	６月 11 日（土） ▲武奈ヶ岳(予)	講座で学んだことを生かして登る	実技①より少し、足を伸ばして、高さ、時間、ともにグレードアップ。
理論⑥	６月 14 日（火）	まとめ －長く登山を続けるために	登山の危険と安全対策についてまとめます。簡単な救急法も。

受講料:6000 円（実技にかかわる交通費、保険料などは実費）／**定員：40 名**

申し込み：県連のメールアドレス（aichirousan@gmail.com）もしくは fax052-654-1210

Schedule 2016.2～4

2016年2月			3月			4月		
1	月		1	火		1	火	
2	火		2	水		2	水	
3	水		3	木		3	日	
4	木	女性のつどい⑩	4	金	理事会 27	4	月	
5	金	理事会 23	5	土		5	火	
6	土		6	日	県連第 28 回定期総会	6	水	
7	日		7	月		7	木	
8	月		8	火		8	金	
9	火		9	水		9	土	
10	水		10	木		10	日	
11	木	組織担当者会議⑦	11	金		11	月	
12	金	理事会 24	12	土		12	火	
13	土		13	日		13	水	
14	日		14	月		14	木	
15	月		15	火		15	金	
16	火		16	水		16	土	
17	水		17	木		17	日	
18	木		18	金		18	月	
19	金	理事会 25	19	土		19	火	
20	土	↑　全国総会	20	日		20	水	
21	日	↓　　（東京）	21	月		21	木	
22	月		22	火		22	金	
23	火		23	水		23	土	
24	水		24	木		24	日	
25	木		25	金		25	月	
26	金	理事会 26	26	土		26	火	
27	土		27	日		27	水	
28	日		28	月		28	木	
29	月		29	火		29	金	
			30	水		30	土	
			31	木				

ご意見、ご用望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。
http://aichirousan.web.fc2.com/　　e-mail:aichirousan@gmail.com

▲安倍首相、ラジオ番組で改憲強調。本末転倒のつじつま合わせ。感心してしまう▲福島第一原発の事故後、自主避難者が起こした訴訟で東電に賠償命令▲『山と渓谷』3 月号の特集は「強い登山者になるための体づくり」。「山筋ゴーゴー体操」についても語られている。『登山時報』と一緒に読もう